



＊第37回＊

濱崎理佳

NEC

放送系情報システムの 開発に携わって

～文系出身女子の奮戦記～



まえがき

原稿執筆のお話をいただいたとき、最初に思ったのは「理系出身じゃない私が執筆していいのか？」という点でした。というのも、私は大学ではいわゆる社会学系で情報フローの研究を専攻しており、卒業時は「文学士」、つまりまったくの文系だったからです。

皆様には、こんな文系出身女子でも、「リケジョ」と言われるような仕事を続けている人もいるのだという話のネタにでもしていただければと思います。

学生時代

学生時代は「衛星を利用した情報サービス」というテーマで、DBS（直接衛星放送）についての問題点やスピンオーバーについての研究を行っていました。テーマがあまりにも壮大すぎて、吸収しきれないことも多かったのですが、これからの放送体系に対する興味は、いっそう掻き立てられました。

就職を考えたときに真っ先に頭に浮かんだのは、「何かメディアのように人々に情報を提供するような職業につきたい」という思いでした。そんなとき、OG訪問でシステムエンジニア（以降SE）として働いておられる先輩から話を伺い、SEという職業に興味を持ちました。

↑日本電気株式会社 放送メディア事業部

"Engaged in the Development of Broadcast Information Systems; The challenge of women from the humanities" by Rika Hamazaki (Broadcast and Media Division, NEC Corporation, Tokyo)

大学でワープロや統計処理に使っていたこともあり、コンピュータに対する抵抗感もさほどありませんでした。元来負けず嫌いを自覚し、何か手に職をつけたいと思っていた私にとって、この職業ならば自分の職業観・特性を活かせるのではないかと考えたのです。

できればSEとして、番組の裏側を統制するようなシステムに関わりたい、そんな思いを抱いて、日本電気ソフトウェア（現 NEC ソリューションイノベータ）に入社しました。

新人時代

新入社員として技術教育を受講した初日から私は打ちのめされることとなります。初日に実施された簡単なクイズがまったくできなかつたばかりか、マシン実習ではパラメータを間違えてコンパイルができず、大部分の人が終わっている中、間違いの理由もわからずマシンに向かう羽目になりました。またその後のフローチャート作成ではどう書いていいかがまったくわからず、席に着いたままペンを動かすことすらできなかったのです。学生時代に経験のある人はどんどん課題をこなしていきます。コンパイル、リンクなどという言葉は聞いたことすらなく、フローチャートがあることさえも知らなかつた私は、SEになろうなどと、なんて大それた生意気なことを考えたのか、そんな風に感じて落ち込みました。

でも、習うより慣れる、知らないのだからできなくて当たり前、そう思っ

て目の前の課題をこなしていくうちに、なんとなく道が開けてきたように思います。

また、その時受けた講義内容から、SEという職業がどれだけ多くの資質を必要とするかを知って、自分が選択した職業の奥の深さに改めて驚かされました。

約3ヵ月の研修期間を終えて、希望通り放送系のシステムを担当する部署に配属が決まりました。念願だった放送局のラック室や調整室に足を踏み入れた時の感動は今でもはっきりと覚えています。

担当業務

配属後すぐにNECへ派遣され、以降さまざまな組織への異動を経た後に移籍となり、現在に至っていますが、入社以来一貫して、番組制作の情報を扱うシステムを中心とした放送系ICTシステムの構築を担当しています。

最初の数年はマシンの環境生成やプログラミングなど、いわゆる泥臭い仕事専門で、お客様へのプレゼンや仕様打合せといったいわゆるSEとしての一般的イメージとはかけ離れた仕事をしていました。同期入社や年次の近い男性社員がどんどんお客様との打合せに同席しているのを見て、つい自分と比べてしまい、焦る気持ちもありましたが、このときなかなか思うとおりに動かないプログラムやコンピュータと格闘したことはその後のプロジェクトマネジメントを行う上で得難い良い経験となりました。



現在の担当事業領域

現在は担当分野について提案，仕様調整，構築，保守といった，一通りのプロセスに対応しています。状況に応じてお客様や関連会社との金額調整，工事の調整・立会など，システム構築に関連することは何でもやっています。

工事立会で出張するときには化粧ポーチに入れていたニッパーとラジオペンチ（ケーブルを整線したいときに必要）が飛行機の手荷物検査でひっきり，検査員に怪訝そうな顔をされたなんてこともありました。

据え付けられたときには単なる空っぽのマシンが，構築作業を経て実際にお客様に使われるところまで，モノが生み出される過程をトータルで見ることが出来る点がSEという職業の魅力の一つだと思います。

併せて事業部内のPMO（プロジェクトマネジメントオフィス），品質推進，SI技術統括，ISMS認証取得といった横断的な活動も行っています。

この手の役割はどうしても外野が正論ばかりを指摘するといった形になりやすいので（かきう自分も当事者になる前はそう思っていた）今でも，現場の

最前線に対応しているからこそその目線を失わないように心がけています。

女性の視点

仕事柄，女性の比率はまだ低く，所属組織では技術職として働いている女性は2割程度だと思います。女性が仕事を続けやすい制度も整ってきていますが，「女性だから」が理由で何らかの差が生ずることが，まったくないといったら嘘になるかもしれません。

ただそれは，組織や会社制度というより「その人の持つ考え」によるところが大きいのように思います。

私自身まったく思ってもいないのに，職場の上司から「女の子はお客様との打合せには出席したらないから」といきなり決めつけられたこともありました。

逆にお客様から面と向かってお叱りを受けたとき，同席していた先輩社員から「あれは女性とか若手とかまったく関係なく，メーカーの代表者として言われている状態だったね」と後から言われて，初めてお客様が男性女性を区別せずに接して下さっていることを実

感したこともあります。

確かに女性のほうが結婚・出産などを初めとする周辺環境の変化を受けやすいと言えますが，それに対して直球勝負で真っ向から立ち向かうというよりは，柳に風としなやかに受け流す，ゆるやかな「ばわあ」が必要なのではないかと思います。

世の中のニーズが多様化する現在，相手のことをまるで自分のことのように感じることで女性の感性が役に立つ局面は多いはずで，後進のみなさんには是非しなやかにさまざまな変化を乗り越えていていただきたいと思います。

私自身は就職して7年目に結婚し，初めて親元を離れました。それ以降ずっと共働きで，旧姓を使用しています。「仕事と家庭とどうやって両立しているのか？」といわれると，「両方とも立ってはいない」というのが正しいのかもしれませんが。

ただ，親の介護や夫の入院を経験したとき，仕事があってよかったと実感することがありました。身内の問題は四六時中頭から離れないものですが，

仕事をしているその瞬間だけは没頭するタイミングがあったからです。決して忘れることはできないのですが、仕事がなかったら一人悶々と気持ちが減入るばかりで耐えられなかったと思います。

私は、常々仕事とは「社会に自分を表現する手段」だと思ってきました。これからも自分なりのやり方で「濱崎理佳」を社会に表現していきたいと思っています。

大切にしていること

今までさまざまなシステム構築を担当してきましたが、一貫して意識するように心がけているのは「お客様の本来の業務は『放送を出すこと』であって、『システムを構築・運用すること』ではない」ということです。

特にニュース番組を制作するようなシステムの場合、お客様にとっては今この一瞬に起きた出来事をいかに早く送出すかということが重要になります。そのような時間軸の業務では半年先・1年先にでき上がるシステムの仕様を確認することは難しいことだという点を常に意識しておくこと、その状

況下でどうしたらお客様に具体的なイメージを持っていただくことができるのか、そのための施策を常に考えつつ、新たな技術や開発手法を積極的に取り入れていく必要があると思っています。

そして「自分の個性で仕事をする」とこれは私が新人時代に、実際にお客様から頂いた言葉です。言われたときは意味も理解できていないまま、自分の目標にしたりしていたのですが、仕事のできる人の真似をしてみても、所詮違う人間のやることであり、自分にまったく同じことはできないということに、ある時思い至りました。それ以降、「私は私」、「自分の個性を活かしたやり方をすればいい」と考えるようになりました。

また、最近では新卒の採用面接を担当していますが、学生から「SEに一番必要とされるスキルは何ですか?」という質問を受けることがよくあります。

プログラミングの経験等を確認される方もおられますが、私自身はそういった技術的なことはそれほど重視していません。自分自身もまったくそんな経験はありませんでしたから。

ICTの世界の流れは速く、今の技術

もすぐに使い古されたものになります。学生時代にアドバンテージはあっても、その差はすぐに縮まります。その中であって必要なのは、何にでも取り組むフットワークと豊かな感性、そしてコミュニケーション力と柔軟性だと思います。

SEの本分とは結局「物を生み出すこと」だと思っています。今コンピュータに関わっていなくても(理系でなくても)、SEという仕事に少しでも興味のある方は、積極的にチャレンジしてください。そして是非、皆さんの「個性」を仕事に活かしてください。

むすび

仕事を続けていると、思うようにならないときや、足踏みしなければならぬこともあるかもしれません。

でも、例え他の人に追い抜かれたとしても、所詮駅の改札口をどちらが先に通るか程度の違いでしかありません。実際に電車に乗ることができるかどうかはその後の行動次第なわけです。

自らの持つ「ばわあ」を武器に、社会で活躍するリケジョがどんどん増えることを願っています。

(2017年7月31日受付)